

第3節 みんなが協働して環境保全に取り組んでいるまちをつくる

現状と課題

豊かな自然に恵まれた八王子の環境を守り育て、私たちの身近な環境をより良くしていくためには、一人ひとりが環境について考えるとともに、市民や事業者が協働して、環境保全に取り組んでいくことが大切です。

地域住民が一体となって環境への取組を推進するため、自然体験講座など地域に根ざした環境教育・環境学習を推進するほか、環境に関する様々な情報を提供しています。

今後は、地域特性に応じた環境教育・環境学習をより一層、充実させることが求められます。

また、環境保全に対する意識を高め、環境保全活動への参加につなげるためには、様々な媒体を用いて、環境に関する情報を提供、収集することが重要です。

第1項 環境教育・環境学習の推進 — 学びは一生の宝物 —

成果指標

指標名	計画策定時	中間目標（H30）	最終目標（H35）
「エコひろば」における講座の受講者数	3,696 人	5,000 人	6,500 人

（指標のねらい）

環境に関する講座を受講することにより、環境問題への意識の向上や地域での環境保全活動につながります。

1. 環境教育の充実

（1）環境教育に関する冊子の作成

「学校教育における八王子市環境教育基本方針」に規定された環境教育目標である「環境問題に関心を持ち、環境問題を解決する行動力を持った人の育成」を実現するため、「はちおうじこども環境白書」を作成しました。「みどり」、「ごみ・資源」、「水」、そして「地球温暖化」について、身近な八王子の環境に興味を持ち、自ら取り組めることを考え、学校のみならず家庭での実践につなげることを目指します。

また、これまで同様、ごみの減量やリサイクルの意識を育てるための「きれいなまち八王子」と川への関心を高めるための「川と友だちになるノート」をそれぞれ作成し、はちおうじこども環境白書とともに市立の小学4年生に配付しました。



はちおうじこども環境白書

（2）教員の環境教育への意識向上

未来を創る子どもたちが、身近な環境とのふれあいから環境に関心をもち、様々な体験を通して環境への理解を深め、環境保全への行動力がもてるよう育成することを目標に「学校教育における八王子市環境教育基本方針（第二次）」を22年度に策定し、学校において環境教育を推進しています。

この目標を実現させるための取組として、学校ごとの環境教育全体計画および年間指導計画に基づいた環境教育の実践を行っています。また、夏季教員向け研修（パワーアップ研修）で、環境教育をテーマにした研修会を実施するとともに、環境教育の小中一貫教育指導資料の活用を推進し、教員の環境教育に関する指導力の向上を図り、教育活動を充実させました。

（３）学校や地域特性に応じた環境教育の推進

市民・事業者が環境について関心を持つきっかけづくりと、環境保全活動団体などが地域に根差した活動をするための拠点として、市では１７年１月、北野余熱利用センターに八王子市環境学習室「エコひろば」を開設しました。

学校や地域特性に応じた環境教育の推進のため、エコひろばでは市立小中学校の総合的な学習の時間などを使って行われる環境学習において、環境教育支援を行っています。これは、地域特性を活かして活動している環境市民会議をはじめ、環境学習リーダーや環境診断士を学校に派遣し支援することにより地域の人材を活かした環境教育の充実を図っています。２６年度は、小学校２２校、中学校２校で実施し、計２，０８９名の児童・生徒が参加しました。



環境教育支援事業「まとめ発表会」

２．環境学習の拡充

（１）環境学習の推進

１７年に北野余熱利用センターに開設したエコひろばが１０周年を迎えました。環境に関わる講座やイベントなどを開催し、入場者は毎年増加し、２６年度は延べ４８，７４７名が来場しました。

また、環境に関する図書や器材の貸し出しなども行い、環境学習の実施を支援しました。



手すきハガキ作り体験

（２）環境学習・啓発活動の展開

農業体験では、田植えから収穫までの一連の作業を通して、農家との交流を深め、水田の多面的機能や都市農業の現状を習得し、農業に対する理解を深めることを目的とした「農業にふれあう稲作体験」を６月２１日（田植え）、１０月４日（稲刈り）、１０月２５日（収穫）の全３回で実施し、１０組２６名が参加しました。



田植えを体験

林業体験では、その一環として、１２月６日に山林で採取した「つる」を土台にしたクリスマス・リース作りに２０名が参加しました。

また、町会・自治会をはじめ、多摩川漁協八王子支部、河川管理者、教育機関、そして市が組織する「八王子浅川子どもの水辺協議会」では、「ガサガサ探検隊」および「水辺のかんきょう教室」等を開催し、計７３３名の方に参加していただきました。

なお、水辺協議会は２７年３月３０日に国土交通省から「八王子浅川水辺の楽校」として登

録されました。

このほか、地域の自然環境を身近に感じてもらうと、環境市民会議と市が協働で行っている「自然体験講座」を計12回実施し、延べ420名が参加しました。

また、学習会などに市の職員が講師として伺い、講義や説明をする「はちおうじ出前講座」の環境関連の講座では、「始めよう！あなたにもできる温暖化防止の取組」、「生ごみをたい肥に『ダンボールコンポストのすすめ』」、「教えて『ハチ博士』～ハチとうまく付き合うために～」など6講座を実施し、環境教育・環境学習を支援するとともに、環境意識の向上を図りました。

そのほか、1月31日と2月1日にはエコひろばにて10周年を記念したイベントを開催しました。

イベントでは「八王子のみどりの保全と活用」や「環境市民会議とエコひろばについて語ろう」をテーマにフォーラムディスカッションを行ったほか、燃料電池機関車への乗車体験や省エネかるた大会など子どもから大人まで環境について楽しく学んでいただきました。

なお、毎年環境月間である6月の第1土曜日に開催している「八王子環境フェスティバル」は荒天のため中止となりました。



浅川をイカダで川下り



エコひろば10周年記念イベント

3. 環境保全に精通した人材の育成・活用

(1) 人材育成と環境指標

ア. 環境診断士と環境指標「ちえっくどう」の普及・活用

市民・事業者が自ら環境について調べ、行動していくための手引書として身近な環境診断「ちえっくどう」は、多くの市民に活用されています。

この「ちえっくどう」を用いて環境診断を行う際に指導・助言するための人材として14年度から環境診断士を養成し、36名の方が活躍しています。

環境診断士は、環境市民会議のメンバーとして地域に根ざした環境保全活動を行いました。また、25年度から3か年の予定で実施している、中央大学と市との協働による地域診断を継続して実施しました。その情報を、中央大学生が集約・分析し、結果についての意見交換会を3者間で実施しました。

イ. 環境学習リーダー

環境市民会議の活動を適切に支援する人材として、環境診断士と同様、14年度から環境学習リーダーを養成しており、現在187名となっています。

環境学習リーダーは、各地区の環境市民会議に分かれ、その地区の特色を生かした様々な環境保全活動をリードするほか、小学校を対象に実施している環境教育支援事業にも携わるなど、地域での環境学習の促進において中心的な役割を担っています。

（２）環境市民会議の活動支援

市内を６つの地区に分け事業者・市民の皆さんが、自発的に環境保全活動を実践しています。

会員数の拡充と活動の活性化を図るため、広報等で会員を募集。環境診断士、環境学習リーダーの活用にもなっています。２６年度は２３４名の会員が活動しています。

毎年８月には各地区の環境市民会議の活動内容を知ってもらうため、環境パネル展を開催しています。



環境パネル展

４．評 価

ここでは、基本施策Ⅲ—１環境教育・環境学習の推進についての評価結果を掲載します。

成果指標

指標名	計画策定時	中間目標 (H30)	最終目標 (H35)	前年度	H26 実績
「エコひろば」における講座の受講者数	3,696 人	5,000 人	6,500 人	3,043 人	6,422 人
	中間目標に向けた評価	評価理由		今後の展開	
	順調	２６年度から、エコひろばへの事業委託にダンボールコンポスト講座等を含めたため、受講者数が大幅に増加した。		市民に関心の高い講座を増やし、受講者数の増加を図る。	

基本施策の評価： ほぼ目標を達成した

<市内部での総括評価>

教員に対し環境教育に関する研修会を実施したことにより、環境教育への意識向上を図ることができた。また、北野環境教育・学習拠点づくり委員会の活動は良好であるが、今後の継続性や目標についてしっかりと位置付けをしてさらなる拡充を図る必要がある。

都と民間との協働事業に協力する形で協定を締結した「高尾の森自然学校」が２７年４月に開校した。（Ⅰ—１みどりの多面的機能の活用と関連あり）

<今後の展開>

小中学校での環境教育支援の継続実施、戸吹地区における環境学習拠点の整備の検討を行う。環境学習リーダー等の育成を行う。

「高尾の森自然学校」での学習会開催の周知・広報等行う。

<環境推進会議での相互評価>

関心の高い講座を実施するとともに、市民との協働で環境教育・環境学習を推進していただきたい。

第2項 環境情報の提供、収集及び活用

成果指標

指標名	計画策定時	中間目標（H30）	最終目標（H35）
「エコひろば」SNS ページ登録者数	0人	3,000人	6,000人

（指標のねらい）

SNSなどで環境情報の共有が容易になることにより、より多くの人の環境問題に対する意識が高まり、環境保全活動への参加につながります。

1. 役立つ環境情報の発信

（1）「八王子市環境白書」の発行

環境保全等に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、市の環境の現状および環境基本計画に基づく施策の実施状況を明らかにしたもので、毎年発行しています。

また、これらに関わるデータは、データ集として同時発行しています。

（2）「環境報告書」の発行

市内にある6か所の環境施設について、事業活動における環境配慮の取組状況に関する説明責任を果たすため、環境配慮の方針、目標、取組内容および実績を毎年度公表しています。

■環境報告を発行している施設

1	北野清掃工場	4	北野下水処理場
2	戸吹清掃工場	5	戸吹不燃物処理センター
3	北野衛生処理センター	6	プラスチック資源化センター

（3）ホームページによる環境情報発信

市のホームページ(<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/>)において、環境情報を提供しています。

（4）環境学習室「エコひろば」

「エコひろば」でもホームページ(<http://www.ecohiroba.jp/>)を開設し、講座の日程や環境教育支援事業の状況など、環境教育・環境学習に関わる情報を中心に提供しています。

また、環境情報を発信するための新たな媒体として、26年度に「八王子市エコひろば」のFacebookページを開設し、講座開催に関する情報などを発信しています。

2. 評 価

ここでは、基本施策Ⅲ—2 環境情報の提供、収集及び活用についての評価結果を掲載します。

成果指標

指標名	計画策定時	中間目標 (H30)	最終目標 (H35)	前年度	H26 実績
「エコひろば」SNS ページ登録者数	0 人	3,000 人	6,000 人	0 人	211 人
	中間目標に向けた評価	評価理由		今後の展開	
	やや遅れている	Facebook ページを開設したことにより SNS による情報発信を行えるようになったが、登録者数が伸び悩んだ。		Facebook ページの一層の周知と、提供する環境情報を拡充する。	

基本施策の評価 : ほぼ目標を達成した

<市内部での総括評価>

環境フェスティバルなどの大規模イベントでのPRができなかったことにより、SNS 登録者数は年度目標を達成できなかったものの、Facebook ページを開設したことにより環境情報を発信することができるようになった。広報紙では3回環境に関する特集記事を掲載した。

広報紙などのさまざまな媒体を通じて環境情報の提供ができている。

<今後の展開>

環境白書や広報紙による継続的な情報発信だけでなく、Facebook を利用した情報発信を拡充していく。

<環境推進会議での相互評価>

Facebook を活用するなど、より多くの人に環境情報を発信できるよう努めていただきたい。また、Facebook 等の SNS による情報発信だけでなく、従来通り広報紙やチラシ等での情報提供に関しても積極的に行うとともに、町会自治会とも連携を図っていただきたい。